

第2回山ノ内町立学校づくり準備委員会 次第

日 時 令和7年6月11日（水）
午後5時30分～午後7時00分
場 所 山ノ内町文化センター 3階ホール

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 報告事項

(1) 前回委員会の会議結果について

- ・準備委員会における検討事項及び全体スケジュールについて

4. 会議事項

(1) 統合学校の開校に向けたコンセプトについて（※グループ討議）

伏木委員長の5つの視点をふまえて

〈テーマ〉

- ・義務教育学校について

5. その他

(1) 保護者及び地区懇談会の開催について

6. 閉 会

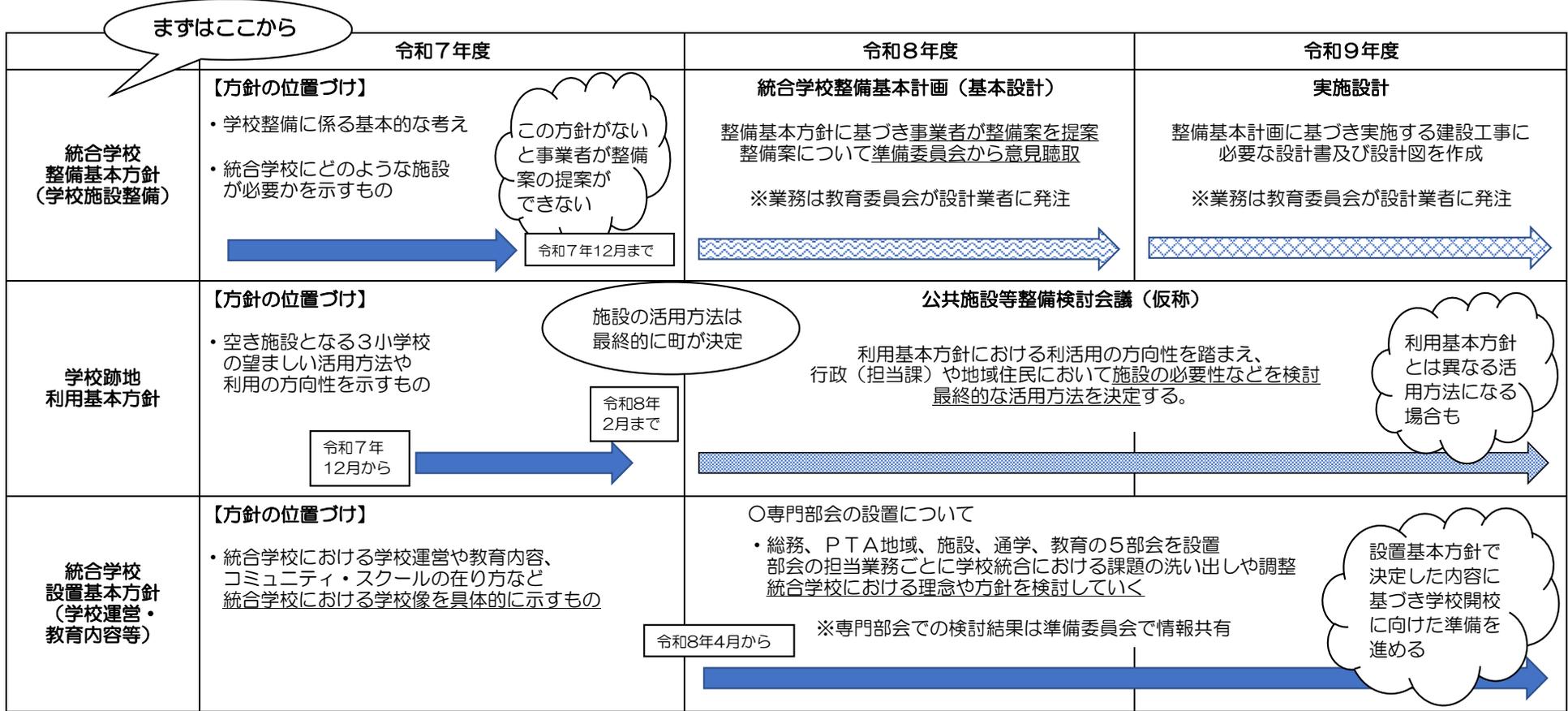
山ノ内町立学校づくり準備委員会6月ワークショップ名簿

	所属等	氏名	グループ
1	東小学校PTA	南條信太郎	A
2	ほなみ保育園保護者会	山戸真理子	
3	山ノ内中学校長	山口 近	
4	すがかわ保育園保護者会	丸山恵美子	
5	ICT教育コーディネーター	清水 智	
6	公募委員	杉戸 香奈	
1	南小学校PTA	平原 剛	B
2	志賀高原保育園保護者会	佐藤 穂積	
3	西小学校長	竹内 由紀	
4	園長会（志賀高原保育園長）	岩本 光	
5	議会社会文教常任委員会委員長	高田 佳久	
6	主任児童委員	佐藤 重子	
1	西小学校PTA	渡邊 充	C
2	かえで保育園保護者会	大裕 若菜	
3	南小学校長	中村まゆみ	
4	学識経験者（学校長経験者）	原 隆文	
5	区長会	山崎 昭	
6	社会教育委員	羽田 吉彦	
1	山ノ内中学校PTA	小湊 崇法	D
2	よませ保育園保護者会	小淵 正成	
3	東小学校長	北垣内 博	
4	里山ようちえん おやまのおうち	山崎 龍平	
5	子ども会育成会連絡協議会長	下田 敏雄	
6	公募委員	新井 彩香	
	学識経験者（信州大学）	伏木 久始	

事務局	教育長	竹内 延彦	
	教育次長	望月 弘樹	
	子ども未来課学校統合準備係長	山本 敏幸	
	子ども未来課学校統合準備係	畔上 俊樹	
	子ども未来課学校統合準備係	菅原 勇介	

山ノ内町立学校づくり準備委員会 会議結果報告書

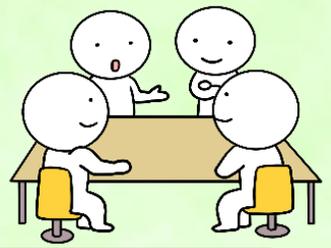
会議名	第1回 山ノ内町立学校づくり準備委員会	
日時	令和7年5月14日（水） 午後5時00分～午後7時00分	
会場	山ノ内町文化センター 2階 学習室	
出席・傍聴人数	出席 20人 / 欠席 5人	傍聴者 8人
会議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の委嘱 ・正副委員長の選出 【報告事項】 ・山ノ内町立学校づくり準備委員会の役割について 【会議事項】 (1) 学校統合に係る基本方針について <ul style="list-style-type: none"> ①山ノ内町立学校適正規模及び適正配置に係る基本方針について ②山ノ内町立統合学校整備基本方針（案）について (2) 今後のスケジュール 	
決定事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長に伏木久始氏、副委員長に羽田吉彦氏を選任 ・6月中旬から7月上旬にかけて保護者及び地域懇談会を開催 	
質問・意見等	<p>【山ノ内町立学校づくり準備委員会の役割について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員が本会議でどんなことをやるのかわかるように資料や説明がほしい。 ・統合学校整備基本方針の（案）をとる決定はどこが行うのか。 <p>回答 教育委員会が（案）をとる決定をする。準備委員会では最終的な統合学校整備方針（案）の作りこみをお願いしたい。</p> <p>【山ノ内町立学校適正規模及び適正配置に係る基本方針について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問・意見なし <p>【山ノ内町立統合学校整備基本方針（案）について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備方針に閉校にかかわる取り組みの文言を入れたほうがよい。 ・コミュニティ・スクールは文科省型と信州型のいずれにするのか議論が必要。 ・廃校校舎の後利用は大事であり、懇談会等で意見を聞くのはどうか。 ・保小中の連携は大事であるが、どのように連携を図っていくのか。 ・放課後対策などを考えてほしい。 ・目指すべき学校像について、ワークショップができるように資料を用意してほしい。 <p>【今後のスケジュールについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者懇談会について、開催日時のスケジュールを早めに連絡してほしい。 <p>【その他意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回の会議や保護者・地域懇談会で何を議論するか内容を明確にしてほしい。 ・コミュニティ・スクールに関わってもらえるボランティアが少なく、人材が広がっていかない実情を考えていく必要がある。 	



-  : 学校づくり準備委員会における検討時期
- 各基本方針は準備委員会で検討した後、検討結果を教育委員会に報告。準備委員会での検討結果を尊重するなかで教育委員会で最終的に方針を決定する。

検討すべき基本方針について

学校づくり準備委員会では次の方針について議論を進めていきます。



① 統合学校整備基本方針

★方針の位置づけ★

- ・中学校敷地での施設整備の基本的な考えを示すもの。
- ・教育未来ビジョンを踏まえ、これから町が行う特色ある教育を進めるにあたり、どのような施設が必要かなど、来年度に作成する整備基本計画(基本設計)の基となるもの。

★検討内容★

- ・教育未来ビジョンで示す教育内容を推進するためにどんな取組が必要か。
- ・大人も行きたくなる学校とはどんな学校か。
- ・これらを実現するためにどんな施設が必要か。

② 学校跡地利用基本方針

★方針の位置づけ★

- ・空き施設となる3小学校の今後の利活用として望ましい方向性を示すもの。
- ・決定は町が行うこととなるが、町に対し方向性を提案する。

★検討内容★

- ・今後のまちづくりを見据え、必要と思われる施設、活用方法。
- ・老朽化の進む施設の更新での活用
- ・今後必要になるとと思われる施設の提案。
- ・民間事業者による活用。

③ 統合学校設置基本方針

★方針の位置づけ★

- ・統合学校の設置にかかる学校運営方針や学校行事、教育内容(カリキュラムや教育計画)、通学方法、コミュニティ・スクール、放課後児童対策、学校備品等の在り方を示すもの。
- ・この方針に基づき、統合に向けた実務的な準備を進める。

★検討内容★

- ・検討内容ごとに専門部会を設置して話し合う。それを受けて、準備委員会で全体で協議する。
- ・統合における課題の整理や調整を行う。

山ノ内町立学校づくり準備委員会 令和7年度スケジュール（案）

期 日		内容等	備考
5月14日	第1回委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・準備委員会の役割について ・学校統合に係る基本方針について ・今後のスケジュールについて 	
6月11日	第2回委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・統合学校開校に向けた考え方について (テーマ) 義務教育学校について	※ワークショップ
6月13日 ～7月10日	保護者懇談会 地区懇談会	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい学校で取り組んでほしいこと ・大人も関わってみたいとなる学校 ※地区懇談会（4回） ※小中学校及び保育園（9か所）	
7月23日	第3回委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者及び地区懇談会結果報告 ・統合学校開校に向けた考え方について (テーマ) コミュニティスクールについて	※ワークショップ
8月下旬	第4回委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・統合学校開校に向けた考え方について (テーマ) 少人数教育について	※ワークショップ
9月下旬	第5回委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・整備基本方針策定に向けた意見聴取 (テーマ) 統合学校において必要な取り組み	※ワークショップ
10月上旬	先進地視察	<ul style="list-style-type: none"> ・学校統合の取組みについて研修 	
10月下旬	第6回委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・先進地視察結果について ・整備基本方針策定に向けた意見聴取 (テーマ) 統合学校において必要な施設	※ワークショップ
11月中旬	第7回委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・整備基本方針（案）について 	
12月中旬	第8回委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・整備基本方針の決定 ・空き校舎の利活用方針について 	
1月中旬	第9回委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・空き校舎の利活用方法の検討 	※ワークショップ
2月中旬	第10回委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・空き校舎の利活用方針の決定 	
3月中旬	※総合教育会議	<ul style="list-style-type: none"> ・統合学校整備基本方針合意形成 ・空き校舎の利活用方針合意形成 	

資料3

第1回学校づくり準備委員会にて

委員長 伏木久始 先生から示された



今後検討したい5つの視点

1 義務教育学校の意義とリスクに関する議論

義務教育学校開校(学校統合)による、地域文化伝承の困難さ、通学方法の変更による体力低下、大人の意識についての考え方

2 コミュニティ・スクール制度の考え方について

学校のお手伝い CS ではなく、地域の人同士がつながる「学校を核とした地域づくり」を推進する、スクール・コミュニティを構築するために

3 少人数教育の価値の再評価

人数が少ないからこそできる教育

本当にクラスの人数が多いほうができることや可能性は増えるのか

4 9年間一貫カリキュラムの設計について

義務教育学校だからこそできること 前期課程高学年のリーダー性

時間をかけた課題解決学習へのチャレンジや学習評価の在り方

5 「こどもまんなか」の理念について

こどもを平均化・団体にしない それぞれの個性を活かす学校について

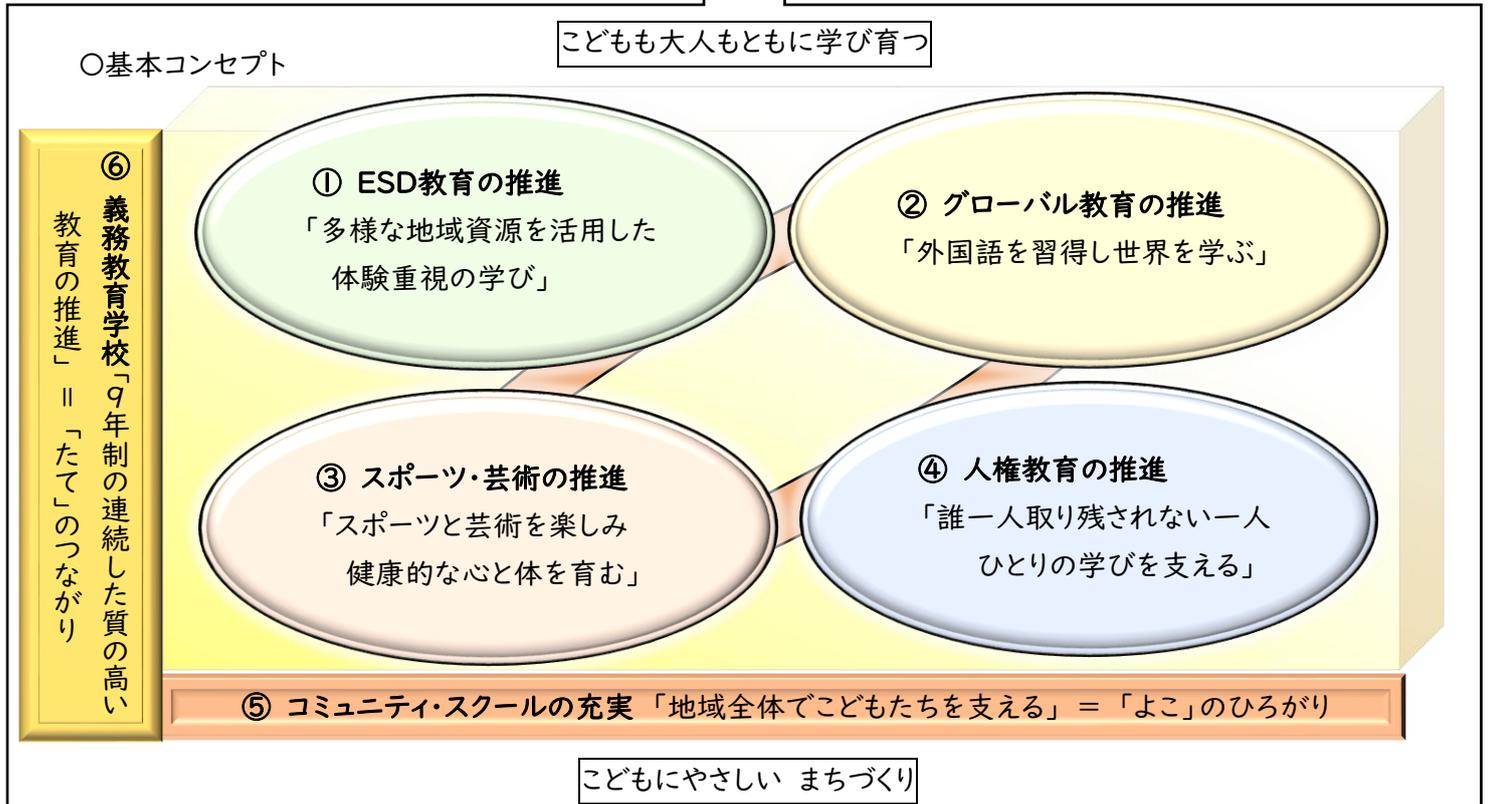
資料4

1 コンセプトを共有しよう

○新しい学校の最上位コンセプト(山ノ内町こどもワクワク教育未来ビジョンより)

こども一人ひとりが自らの興味関心をワクワクしながら楽しく深めることのできる学び

ができる学校



①～④の山ノ内らしい4つ学びを大切にする。

これらを最大限効果的に学び、成果を発揮するために、⑤、⑥の仕組みを充実させたい。

今回の意見交換は委員長から示された5つの視点も踏まえ、上図⑥の「義務教育学校」をテーマにします。

2 義務教育学校についてグループでおしゃべりしよう

○(義務教育学校に限らず)

統合した場合に考える必要があること

- 1 各地区や学校の伝統や文化の継承が困難になることが考えられる
- 2 通学距離の課題 徒歩通学していた児童生徒がバス通学になることで体力の低下が懸念される
- 3 大人の意識の問題 これまでの学校とは異なる未来の学校の姿を、こどもと一緒にイメージできるか

グループでは 次のようなことでおしゃべりします。(例)

- ・左のようなことをどのように乗り越えていくかアイデアを出し合う。
- ・義務教育学校の生活を自分なりに思い描いてみて、不安なこと、心配なことをどんなことか出し合う。
- ・「よくわからない」と思うことをグループの人に尋ねる。

最後に印象的な話や感想を教えてください。

今回の意見交換で出されたことについては、整備基本方針(案)の作成や、次年度からの専門部会で話し合うテーマとして生かしていきます。

資料5

保護者懇談会 日程

月日	曜日	時間	対象地区等	会場
6月13日	金	14:00~15:00	すがかわ保育園 おやまのおうち	すがかわふれあいセンター 大広間
6月19日	木	15:00~16:00	志賀高原保育園	志賀高原保育園 遊戯室
6月20日	金	15:20~16:20	東小学校	東小学校 小体育館
6月20日	金	15:40~16:40	南小学校	南小学校 視聴覚室
6月23日	月	15:00~16:00	よませ保育園	よませ保育園 遊戯室
6月23日	月	18:00~19:00	西小学校	西小学校 ランチルーム
6月24日	火	15:00~16:00	かえで保育園	かえで保育園 遊戯室
6月25日	水	15:00~16:00	ほなみ保育園	ほなみ保育園 遊戯室
6月30日	月	17:30~18:30	山ノ内中学校	山ノ内中学校 視聴覚室

地区懇談会 日程

7月5日	土	17:30~18:30	東部地区	山ノ内町文化センター 学習室
7月7日	月	18:30~19:30	南部地区	ほなみふれあいセンター 軽運動室
7月9日	水	18:30~19:30	北部地区	すがかわふれあいセンター 大広間
7月10日	木	18:30~19:30	西部地区	よませふれあいセンター 軽運動室

適正規模及び適正配置に係る基本方針

(1) 9年間の学びの連続性や一貫性が伴った

「義務教育学校」による学校統合

→ 4つの学びを教育の柱に山ノ内町ならではの
魅力あふれる教育内容を最大限効果的に実践

(2) 地域コミュニティと学校が一体となった

「コミュニティ・スクール」の構築

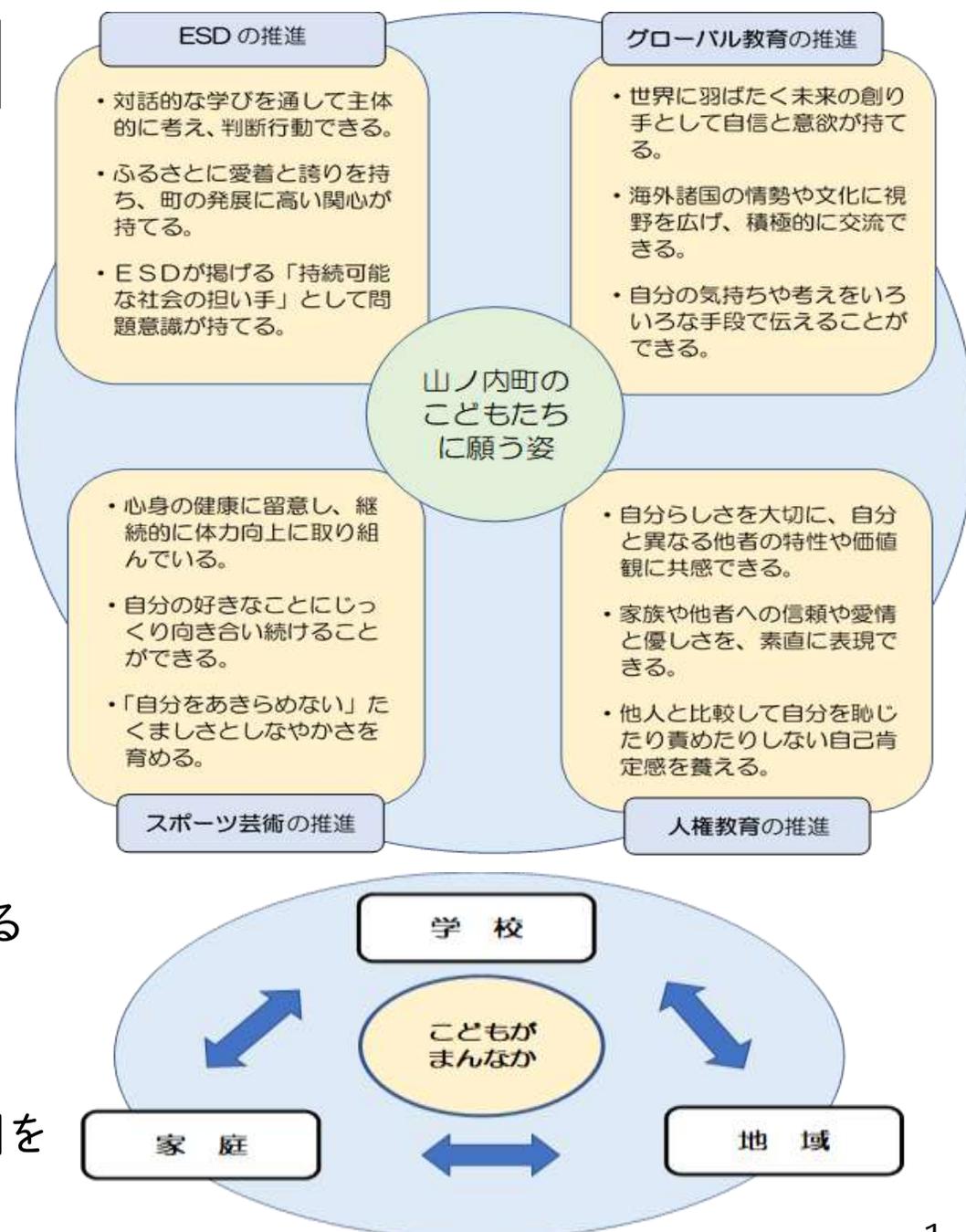
→ こどもたちや保護者、学校関係者、地域住民からも
意見を求めながら、町全体で支える学校づくり、学校運営

(3) 設置場所 山ノ内中学校敷地

→ 既存校舎を活用し、整備費用を抑え、児童生徒が活動する
敷地面積の確保、通学路の安全性を踏まえて選定

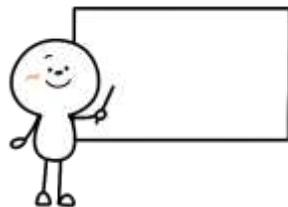
(4) 開校時期 令和12年4月

→ 新たな教育カリキュラムの構築、施設整備、閉校準備期間を
踏まえて開校を目指す



(上図) 山ノ内町こどもワクワク教育未来ビジョンより

義務教育学校



義務教育学校とは、小学校と中学校を一つにした学校のことです。小学校6年間と中学校3年間の義務教育9年間を一貫して教育する学校で、2016年に制度化されました。具体的には、1人の校長の下、一つの教職員組織で、9年間の学校教育目標を設定し、系統的なカリキュラムを編成・実施する学校です。

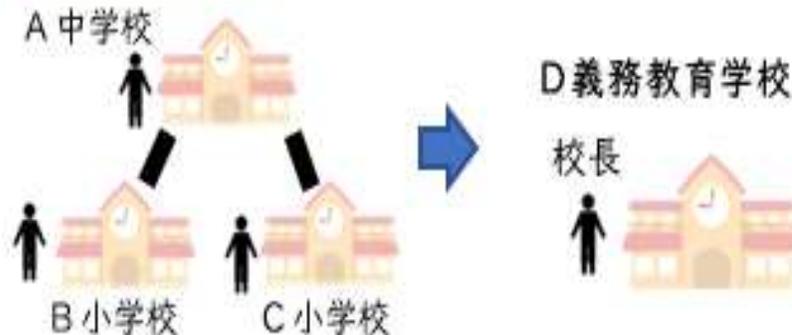
○義務教育学校の良さの例

- ① いわゆる「中一ギャップ」の緩和・解消が期待できる。
(学習、生活面等新しい環境への変化に対する不安の緩和。)
- ② 異学年交流で精神的な発達や社会性を養うことが期待できる。
- ③ 教育課程特例を活用し、自由なカリキュラムの編成ができる。
(『4つの学び』を柱に学校独自の教科が設定可能となる。)
- ④ 学年段階の区切りを「5・4」や「4・3・2」など柔軟に設定できる。
(指導内容の入替え、前倒し等により先を見据えた学習が可能。)
- ⑤ 教科担任制や乗り入れ授業等による指導が充実できる。
- ⑥ 教職員間で児童生徒の学習状況や特性等が共有され、きめ細やかな指導ができる。(校務の効率化や質の向上につながる。)
- ⑦ PTA組織の一本化が図られる。



① 義務教育学校

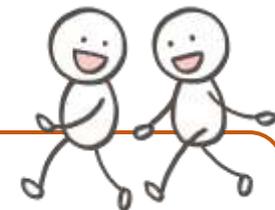
- ・ 新たな学校種 (一つの学校)
→ 一人の校長、一つの教職員組織
- ・ 修業年限:9年 (前期課程6年+後期課程3年)



○(義務教育学校に限らず)

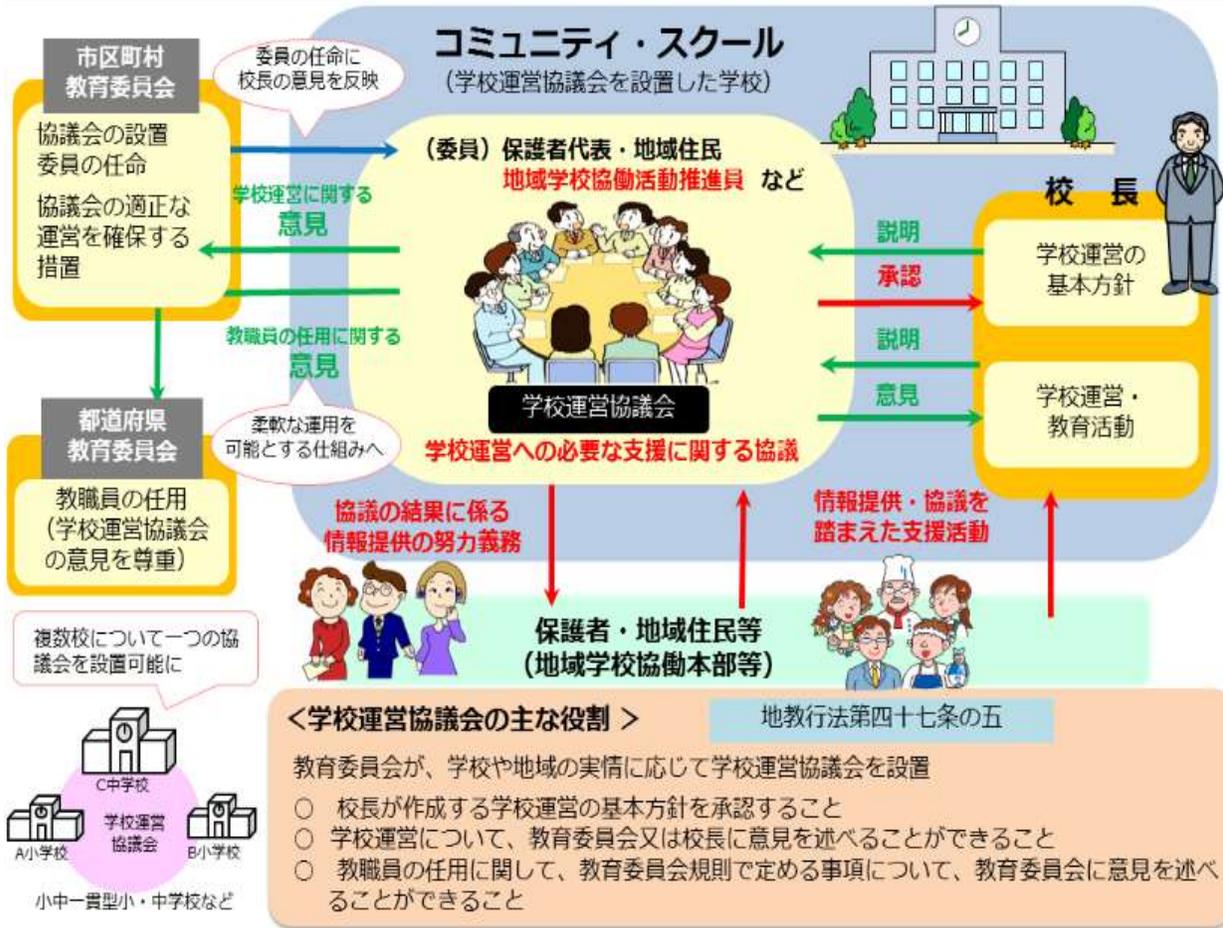
統合した場合に考える必要があること

- ① 各地区や学校の伝統や文化の継承が困難になることが考えられる
- ② 通学距離の課題 徒歩通学していた児童生徒がバス通学になることで体力の低下が懸念される
- ③ 大人の意識の問題 これまでの学校とは異なる未来の学校の姿を、こどもと一緒にイメージできるか

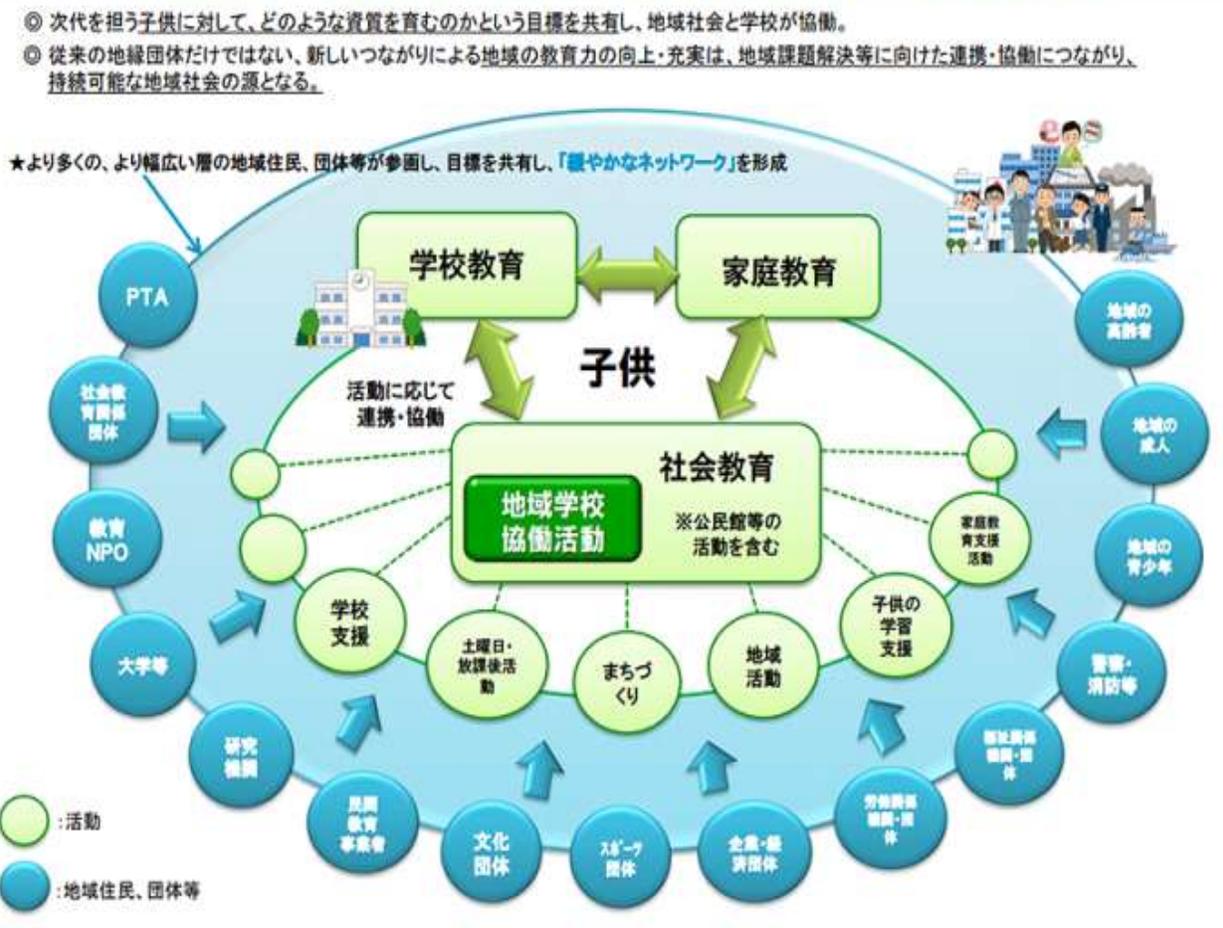


コミュニティ・スクール

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の仕組み



地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み(活動概念図)



コミュニティ・スクールは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながらこどもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。また、近年では「学校を核とした地域づくり」の拠点となる地域づくりへの発展が増えてきています。

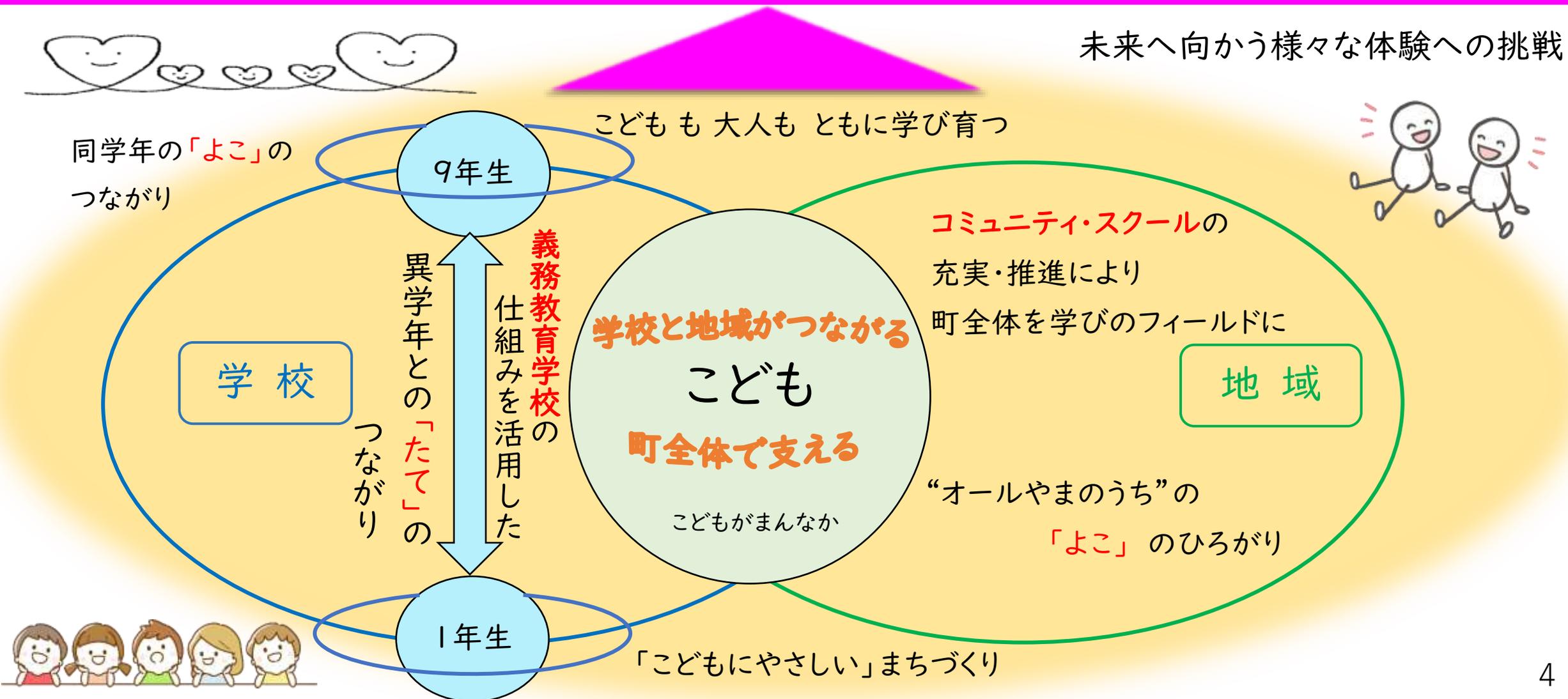
(上図) 文部科学省HPより

コミュニティ・スクールと義務教育学校を一体的に考える“町全体が学園”構想

大きなセーフティネットとして、「縦・横」立体的にこどもを包み込む「育ちと学び」の環境

こども一人ひとりが自らの興味関心をワクワクしながら楽しく深めることのできる学び

未来へ向かう様々な体験への挑戦



山ノ内町立統合学校整備基本方針(案) コンセプト

コンセプト		主な内容	
1	ESD教育の推進 「多様な地域資源を活用した 体験重視の学び」	<ul style="list-style-type: none"> ・自然景観等に配慮し、山ノ内町の特徴や魅力を学べる施設整備 ・学校空間全体が自然教材になる充実した施設及び環境整備 ・調べ学習等に配慮した自主学習スペースの施設整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ESDを積極的に推進できる施設整備 ・集まって学ぶ「交流空間」の整備
2	グローバル教育の推進 「外国語を習得し世界を学ぶ」	<ul style="list-style-type: none"> ・英語教育が活発に活動できる施設整備 ・グローバル社会に対応した学習活動ができる施設整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化に柔軟に対応できる施設整備 ・グループ学習や少人数学習に対応した施設整備
3	スポーツ・芸術の推進 「スポーツと芸術を楽しみ 健康的な心と体を育む」	<ul style="list-style-type: none"> ・体育、スポーツ活動が充実した施設整備 ・健康教育が推進できる施設整備 ・プールは民間施設の利用を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・軽運動等が可能な空間整備 ・文化芸術を身近に触れ、感性を育てる環境整備
4	人権教育の推進 「誰一人取り残されない 一人ひとりの学びを支える」	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー化、ユニバーサルデザインの導入 ・憩いの場やベンチの設置など居場所となる小空間の設置 ・特別支援教育・インクルーシブ教育に配慮した施設整備 ・保健室や相談室と連携しやすい動線に配慮した施設整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・クールダウンスペースや相談室等の整備
5	コミュニティ・スクールの充実 「地域全体で こどもたちを支える」	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とともに行える諸行事を想定した施設整備 ・地域住民なども使え、交流の場となるオープンスペース 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクール推進のための施設整備 ・多様な学習活動に対応できる柔軟な施設整備
6	義務教育学校 「小中一貫を進め 質の高い教育の推進」	<ul style="list-style-type: none"> ・既存校舎を活用し、小中学校で共有可能な施設・空間の整備 ・教室に加えて、オープンスペースなど多様な学びの空間整備 ・異年齢集団との交流が行える空間整備 ・小中9年間を一貫的に学べる環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒や教職員の動線や快適に過ごせる施設配置
7	その他 「自然環境に配慮し、安心しての びのび過ごせる学校」	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT教育環境を考慮した整備 ・ライフサイクルコストを考慮した維持管理しやすい施設整備 ・わかりやすい避難経路、避難しやすい施設配置 	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネルギー化、再生可能エネルギーを活用した施設整備 ・児童生徒と車両の動線を分離する施設配置 ・災害時の避難所として機能するための設備や施設配置

今後のスケジュール(予定)

	R7	R8	R9	R10~11
学校整備	整備基本方針策定	整備基本計画(基本設計)	実施設計	校舎等建設工事
開校・閉校準備	学校づくり準備委員会			(仮称)学校開校備委員会
		統合学校設置基本方針		開校準備
		閉校準備		閉校式典・関係行事準備
				合同学習
		PTA 合同役員会・CS 運営委員会		
		スクールバス通学区域検討・決定		運行計画の調整・通学体験
		学校名決定校歌・校章決定		制服・運動着決定
		義務教育学校の教育課程の検討		学校のグランドデザイン編成
その他	小学校跡地利用基本方針	小学校跡地利活用に向けた調整		
		児童クラブ設置場所検討		

想定施設と特色

教室	普通教室、特別支援教室、オープンスペース、多目的教室
特別教室	ラーニングセンター(図書室)、理科室、 <u>図工室</u> 、音楽室、家庭科室、ESD教室、ICT教室、外国語教室
生活交流空間	玄関、昇降口、階段、エレベーター、 <u>廊下</u> 、児童用トイレ、多目的トイレ、手洗い所、 <u>地域連携室</u>
管理諸室	校長室、職員室、事務室、保健室、印刷室、会議室、相談室、資料室、教材室、職員休憩室、職員更衣室、職員用トイレ、機械室、放送室、用務員室、配膳室
運動施設	<u>体育館</u> 、小体育館、更衣室、体育館用トイレ、グラウンド
外構ほか	駐車場、花壇、ビオトープ、植栽、屋外遊具、異学年交流スペース、動植物育成施設、冬期耐雪スペース、その他付属建物地等

主な施設整備	山ノ内町立統合学校の特色
外観	山ノ内町の自然・景観に調和した色・形状とする。
内装	地元産木材を活用し、木のぬくもりのある内装とする。
普通教室	1学年30人規模学級の2クラス編成を基本に整備し、ICT教育に対応する広さを備えた教室とする。また、多様な学習や少人数学習にも対応できる工夫をする。
廊下	弾力的な学習が展開できるよう、ワークスペースを兼ねたゆとりのある廊下(オープンスペース)とする。
ラーニングセンター(図書室)	主体的な調べ学習や異学年交流ができる環境とする。図書を身近に感じ、気軽に本と向き合える居心地のよい空間とする。
体育館	社会体育施設や、災害避難時の避難所としての機能を有した施設とする。
地域連携室	地域の講師を招いたESD学習や、学習の成果を地域の方に発信する場を整備する。
環境配慮対策(省エネ化)	自然採光・自然換気などを積極的に確保し、LED照明等省エネに配慮した設備とする。太陽光発電・地中熱利用等の再生可能エネルギーを活用し、環境負担を低減する。
その他	トイレや更衣室はユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすい設備を整備する。

みなさんの考えを聞かせてください

○共通テーマ

(保護者としても地域住民としても)

大人も行ってみたいくなる、かかわってみたいくなる学校とは、
どのような学校ですか。

○保護者懇談会テーマ

教育未来ビジョンで示した姿の実現に向け、新しい学校では、
どのようなことに取り組んでほしいですか。

○地域懇談会テーマ

新しい学校の開校により、空き施設となる、3小学校の校舎を
どのように利用・活用してほしいと考えますか。